

## 甲州街道四十四次①

	日本橋	橋の名前。慶長8年(1603)、初代日本橋(木造)が架けられ、慶長9年(1604)、この橋を起点に五街道(東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道)が定められた。
1	内藤新宿	内藤は大名家・内藤氏の姓。新宿は新しい宿場。最初は一番目は高井戸であったが、日本橋から高井戸まで四里(約16km)と遠かったため、日本橋から二里(約8km)の当地に宿場が作られた。内藤が付くのは信州高遠藩内藤家の中屋敷があったため。
2	下高井戸	当地の高井家が宮司の神宮寺に、不動明王のお堂が祀られていことから、高井堂不動と呼ばれた。そこから「高井戸」の地名が発した。
3	上高井戸	同上
4	国領	国衙領(こくがりょう)の略。中央から派遣された国司が支配・徴税した土地。
5	下布田	古称、爾布多・補蛇。古来より布の生産が盛んであったことに由来。類似語—調布。
6	上布田	同上
7	下石原	石が多い原っぱ・固い地盤の原っぱの意。開墾地。
8	上石原	同上
9	府中	国府の所在地。府とは政庁・役所の語。現在で言う都道府県庁に同じ。
10	日野	諸説がある。①台地の烽火台(のろしだい)を火野と謂い、後に日野に換え字。②日の宮権現を祀っていたという伝説に因む。③日野氏の玄孫が来住して、日野と号した。
11	八王子	八人の王子。当地に八王子城・八王子神社が築かれたことに因む。八王子とは、祇園信仰の中心である、牛頭天王(びずてんのう=スサノオ)の八人の王子のこと。
12	駒木野	駒は馬。木野(きの)一馬に関連する語か。き一柵。野一原っぱ。馬の放牧場の意か。
13	小仏	小さな仏像。行基がお寺を建立した際、小さな仏像(1寸8分=5.5cm)を祀ったことに因む。
14	小原	小原(おはら)は小墾(おはり)の転訛。小は接頭語。<はり・はる一張・治・針・春など>地名は開墾地。類似語—尾張・戸張・張田・播磨・針・針貝・榛原・榛沢・春田・治田・大治田・今治など。

## 甲州街道四十四次②

15	与瀬	奈良時代、吉野の金剛蔵王権現を当地に勧請した際、吉野にある地名(大原、八瀬、吉野)を併せて名付けたとされる。
16	吉野	同上
17	関野	関は、堰のことか。堰(水などを堰き止める土手)がある原(土地・集落)。
18	上野原	低地の上方に開けた土地の意。
19	鶴川	鶴(つる)は細く曲がるという意味の(つる)の当て字。細長い水流、湿地帯。都留の当て字あり。
20	野田尻	野田は、ぬた(泥々のさま)・沼田・泥田の換え字か。尻は先端。湿地。
21	犬目	犬は、方角の名称で北西のこと。目は、境目・割目の如く境界のこと。
22	下鳥沢	鳥は、(とり)は傾斜地のこと。沢は浅い水流の意。山合いの傾斜地を流れる沢。
23	上鳥沢	同上
24	猿橋	百濟から来た高僧が、猿が繋がって沢を渡るのを見て、これに習って架けた橋という説が有名。本来は、猿は狭(せま)い沢の謂いで、狭い沢を渡る橋のことであろう。
25	駒橋	駒は馬。馬を渡す橋。放牧場に通じる橋。
26	大月	当地の神社境内にあった大槻(おおつき)の換え字。
27	下花咲	花は、端(はな)。咲は先・崎。突き出た土地。
28	上花咲	同上
29	下初狩	初は、斫(はつり)の換え字。狩(かり)は、刈り取るの意。激しく侵食された地形の形容。
30	中初狩	同上
31	白野	白は、明るい意か。野は原野・開墾地。広々とした明るい土地。
32	黒野田	黒は、(くろ)で、畦(あぜ)・畔(くろ)の俗称。田地の境界。野田は沼田・泥田。
33	駒飼	駒は、馬。飼(かい)養う。馬養部(職業集団)のこと。または牧場地の意か。
34	鶴瀬	都留(つる)郡の背後地の意。瀬は背の換え字。
35	勝沼	勝(かつ)は、片(かた)側の意味に使われる例が多い。片側にある沼の意。沼は水深5m以下で沈水植物が水底で育っているもの。池は湖沼より小さい水溜り、若しくは人工的に作ったもの。湖は水深5m以上で、沈水植物が水底で育たないもの。

## 甲州街道四十四次③

36	栗原	栗(くり)は、崩れの佳字で、崩れる・抉(えぐ)られるの意。原(はら)は、原野・荒地の意。崩れ地・浸食地・崩壊地の形容。
37	石和	石(いし)と沢(さわ)の合成語。石がゴロゴロしている沢。
38	甲府	甲斐(山梨県の旧国名)の府中(国府の所在地。府とは政庁・役所の語)の略。
39	葦崎	葦(にら)は、(にた)の転で湿地の意。崎は岬・先・突き出た所。湿地に突き出た土地。
40	台ヶ原	台地状の地形を形容。山や丘など平坦で台のような土地。
41	教来石	教来石は、巨石信仰の対象であった、清ら石(清やかな石)の謂いを当て字したという説が有力。
42	蔦木	蔦の木が繁茂している土地。
43	金沢	当地には、かつて金鉱山があり、金山・金川・金沢の地名が発した。
44	上諏訪	諏訪は古事記では「州羽」、続日本紀では「諏方」と書いた。他に「須波」「須芳」などの表記。「州」と「須」は同義で「砂浜」。中世から近世では「諏方」が主に使われたが、天保5年(1834)、高島藩が「諏訪」と書くべしと藩命した。
	下諏訪	諏訪は、音の当て字で意味はない。原意は砂浜・砂州・砂須の意。諏一す・しゅ・はかる・相談する・選ぶ。訪一ほう・訪れる・行ってたずねる・聞く・問う。古事記では「州羽」、続日本紀では「諏方」。他にも「須波」「須芳」などの表記もある。高島藩が「諏訪」と書くように藩命を出した。